30. 超音波検査によるIVH穿刺静脈同定の有用性について

川田奈緒子，森田瑞生，長　晃平
小沢志朗　（日産玉川）
栗原正利　（同・気胸センター）

【目的】動脈穿刺等の合併症を最小化するために超音波検査にて穿刺静脈の同定を試みた。

【対象】呼吸器疾患に伴うIVH管理を必要とした7例10回の連続手技（内頸静脈5手技，大腿静脈5手技）。超音波（Aloca社SSD-630）での血管描出度，成功までの穿刺回数を1回穿刺，複数回穿刺，失敗に分類した。

【結果】全手技で穿刺静脈はよく描出された。1回穿刺は8手技で可能であった。複数回穿刺は1手技であり，手技中の患者体動によると考えた。失敗は1手技，再穿刺例でカテーテル送り込み不能であった。動脈穿刺等の合併症はなかった。

【結論】超音波検査にて穿刺静脈はよく描出され，穿刺部位の同定は容易であった。IVH挿入時の安全性の向上および時間短縮に超音波検査は有用と考えられた。

31. カンボジアレポート：アジア最悪の結核の状況とその制圧へ向けての戦略

小野崎郁史（ちば県民保健予防財団
カンボジア結核対策プロジェクト）

長く続いた内戦の影響もあり世界でも最悪の結核まん延状況と推測されたカンボジアにおいて，DOTSの普及と基礎データの収集などを目的とした結核対策プロジェクトの立ち上げと運営にあたってきた。1999年に開始されたプロジェクトでは，カンボジア保健省に協力し，病院（郡）レベル（郡単位）でのみ実施されていた結核の診断治療・DOTSを無医師のヘルスセンター（村落）レベルに拡大し，サービスへのアクセスを改善することで，患者発見を増加させ診断の遅れを大幅に短縮させることに成功した。また，結核菌薬剤耐性全国調査，全国結核実態調査など同国で初めての大規模な調査を実施した。一次分析での結核有病率（10万対：10歳以上，全年齢換算）は，塗抹陽性365，270，菌陽性1223，902で，X線上の活動性結核は2716（10歳以上）であった。首都の患者の30％がHIV陽性であり，今後の疫学動向も注目される。

32. 検査値の総合的可視化表現法に関する研究：喫煙関連因子検索への応用

瀧澤弘隆，山本哲夫，駒澤　勉
藤原正樹，藤井清孝，仲野敏彦
河野肆尚，佐久間光史
（㈶柏戸記念財団医療事業本部）
柏戸正英　（㈶柏戸記念財団）

【目的】本財団で開発した検査値の可視化表現法を喫煙関連因子の検索に応用した。

【対象】平成13，14年度に受診した人間ドック16,627名（男性10,730，女性5,897），年齢20-89（平均48.6）歳の検査値を対象として喫煙の及ぼす影響を分析し，他施設データ13,847例分と比較した。

【方法】結果が量的検査値の性・年齢別平均値と標準偏差を求め，正規化データを得て，平均値100，標準偏差10の標準化検査値を求めた。これら標準化検査値を多項目並列で総合的にグラフ上に表示した。対象を喫煙習慣別に分類し比較した。

【成績】喫煙者では，末梢血白血球数が顕著な増多を示した他，血色素，MCV，MCH，γ-GT，中性脂肪，HbA1cが増加した。反面，総蛋白，T-Bil，Amy，HDL-C，血圧に低下が認められた。これらは，量反応関係を示し，施設間比較で同じ動向を認めた。

【結語】本財団が開発した可視化表現法は，これらの結果を鳥瞰的，有機的に現示した。